

- ① インタビュー(教員編) - 教職教育センター 橘 幸男 教授-
- ② 新任教員研修 - 学生参加型の授業方法を目指して-
- ③ 学外セミナー
 - ・ボーダレス化する大学とBD
 - ・スランプに陥った2年生を救え

インタビュー

教員編

他の先生方はどのような授業をしているのでしょうか。
 学生に伝えたいことが伝わっているのでしょうか。
 よい「授業」とはどのような授業でしょうか。
 正解はないかもしれませんが
 先生の数だけ授業の“カタチ”があります。

1 NEWS



教職教育センター
橘 幸男 教授

Q1. 授業の特徴・ポイントを教えてください。

「学校教育研究」の講義では、学生間の討論や模擬授業、さらにはロールプレイの手法を取り入れています。将来、小・中・高校の教員を目指す学生たちが受講しているので、個別指導を中心にして、教員としての資質を磨いてもらうように、学生個人の個性を伸ばすように心がけています。

Q2. 先生の授業における「三種の神器」はありますか？

受講人数の多い授業ではパワーポイントを使ったこともあります。学生はそれを写し取るだけで講義を受けたと思うようなので、それはやめました。将来の教員としては、相手の言うことを正確に聞きとる力が大切ですので、重要なことを聞きとってメモをとることを学生には求めています。

また、自分の講義を振り返って、わかりやすい内容であったかを確認するため、時々、録音して反省材料にしています。



Q3. 授業の中で一番大切にしていることは何ですか？

小中高では教員間の協働が重要です。また、教員間、対生徒、対保護者、さらに地域という立場の異なった人たちの言うことを聞きとる力とともに、表現の大切さを知ってもらうことを心がけています。そのため、相手に正確に理解してもらえ文章を書かせる習慣をつけさせています。

Q4. 特に苦勞されたこと、悩まれたことは何ですか？

教員には、教科指導だけでなく、生徒指導が求められます。生徒が抱える多様な問題に対して適切に助言し対応するためには、理屈だけでなく、人間性が強く求められます。学生に幅広い対応力をつけさせることを心がけています。

Q5. 今後改善する必要があると思うことがありましたら、教えてください。(甲南大学として・でも構いません。)

授業アンケート調査を大学が行っていますが、もう少し、授業の中身についての調査項目があってもいいのではないのでしょうか。また調査結果については担当教員しか見ることができないようですが、小中高では、教員間のチームプレイで教育を行っているの、お互いに教育の内容をチェックしあうことを行っています。

Q6. 学生にメッセージをお願いします。

相手を理解することが教員を目指す学生にとってもっとも大切なことです。また表現は自分を知ってもらうことですが、その際、「やさしい」言葉を使うよう心がけましょう。相手に伝わりやすい「易しい」言葉は、相手への思いやりを込めた「優しい」言葉でもあるのです。



◀対談写真

橘先生、お忙しい中インタビューにご協力いただき誠にありがとうございました。

